

# 何度でも言う宝の海に！ 放射能を流すな

8月24日、東京電力は、福島第一原発の事故で放射能に汚染された水を、ALPS（多核種除去装置）で処理した水の海洋放出を始めました。トリチウムという放射性物質を取り除くことができないので、「関係者の理解なしにいかなる処分もしない」と、漁業者と約束しました。その約束を踏みにじったのです。「漁師 みんな泣いている」「納得している人などいない」と言う漁師の言葉を新聞が報じています。

福島第一原発の事故で漁ができなくなった福島沿岸の漁業者は、放射能の自主検査や試験操業などの努力を重ね、ようやく本格操業ができるようになりました。漁獲量も増えてきましたが、震災前にはま

だまだ及びません。ようやく立ち直りかけたところにALPS処理/汚染水の放出が始められたのです。

## 若者に継がせられない、漁業が絶える 何年続くかわからない放出

1,000基余りのタンクに貯まっているALPS処理/汚染水は130万トン余りです。放出を始める時、岸田首相は「今後数十年の長期にわたろうとも、全責任をもって対応する」と言いましたが、言葉が軽すぎます。放出には30年かかるとされていますが、溶けた「核燃料デブリ」の取り出しのメドが全く立たず、地下水の流入も止められない現状では、放出が何年続くか、本当は分からないのです。

福島県沖の漁場は、黒潮（暖かい海流）と親潮（冷たい海流）が交わる豊かな漁場です。獲れる魚は「常磐もの」などと呼ばれ、高値で取引されてきました。しかし、漁師の人たちが高齢化すれば、後継の問題が出てきます。豊かな海をそのまま残すことができれば、若い人たちに漁業を引き継いでもらうことができますが、「風評被害」対策をしなければ続けられない漁業では、誇りを持って漁業を継いでもらえるでしょうか。

【裏面につづく】



全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL&FAX 045-575-1948  
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



## 「風評被害」、起こしたのは政府 放出をやめることが一番の対策

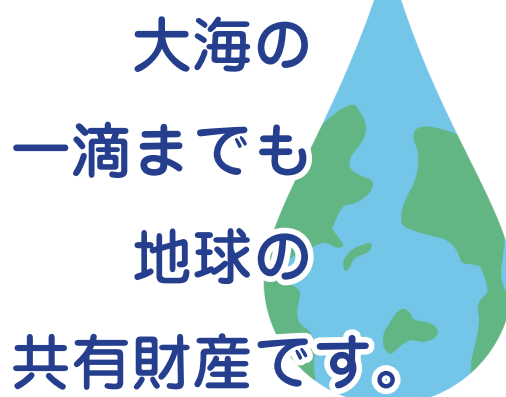
日本や中国、韓国の原発もトリチウムを流している、だから福島から流しても大丈夫、と言う人たちがいますが、トリチウムが危険性のある放射性物質である以上、どの国であっても海に流してはいけません。原発を止めるべきなのです。しかも、福島第一から放出される水は、通常の運転で出される「冷却水」ではなく、溶けた核燃料に直接接触した「汚染水」です。タンクの水の約7割にはトリチウム以外のさまざまな濃度の放射性物質（62核種+炭素14）が含まれています。これから更に処理をして、放出する時には合計でも規制基準（告示濃度比総和）以下にしていますが、政府は、放出する水にはトリチウムしか含まれていないかのような説明を繰り返してきました。

漁業者との約束を守ろうとせず、「安全だ」「問題ない」と都合のいい説明しかしない政府に不信感を持つのは国内だけではなく、日本産の

海産物を輸入禁止にした中国の対応を過剰反応だと非難しても、実際に被害を受けるのは漁師や水産関係者です。陸上で保管する方法も提案されていたのに、薄めて海に流すという一番安易な方法を政府が選んだために「風評被害」が現実のものになってしまったのです。

海は、誰のものでもない、世界の人々の共有財産です。やたらに汚してはいけません。日本国内に陸上保管して管理できる ALPS 処理 / 汚染水を放出するのは、直ちに止めるべきです。

【組合員 N】



### ■ 故長尾光明さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員の長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010 年 4 月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に闘います

原発は電力会社を元請とした 4～8 次の下請会社で稼働しています。3.11 以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40 代男性）は 2016 年 11 月 22 日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月 11 日に街頭宣伝活動を始めて 12 年目になります。労働組合としてできる事は何かをいつも考えています。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！

【2023 年 9 月 11 日】